

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。

幼児教育センター

TAKARA 宝っこだより 18

平成 30 年(2018 年) 12 月

あっという間に師走となりました。4 月に新入・進級した子どもたちも、遊びや節目節目の行事を通して、その持ち味を大いに発揮し、ずいぶんたくましく成長されていることと思います。

さて、先日、NHKで放送された「発達障害って何だろうスペシャル」で、フリーアナウンサーの小島慶子さんと柳家花緑さんがご自身について語られていました。

小島さんは 30 代で不安障害という精神疾患になりその後、40 代に入ってから ADHD と判明したそうです。それまでは、障がいという自覚はなく、①しゃべりすぎ ②計画的に物事を進められない ③片付けが苦手 ④遅刻がなおらないなど、自分の特性について“相当ダメ人間だな”と思っていたそうです。

柳家花緑さんは、中学卒業後、祖父である五代目柳家小さん入門。現在は、テレビや舞台でも活躍され、著書も多数です。そんな花緑さんですが、「読み書きが全くできず、授業中も動き回り、しゃべり倒してしまう。特に漢字が絶望的に読めないで、子どもの頃からつい最近まで、人と同じことができない劣等感や自己嫌悪と闘い続けてきた」と話されていました。

お二人とも、自己肯定感が非常に低く、自分を自分で受け入れられない人生を長く歩んでこられました。ところが、「発達障害」を受け入れることで、これまで抱えていた自己嫌悪から解放され、一人で抱え込まなくてもよいのだというように思えるようになったそうです。

できないことも視点を変えれば、何か工夫はできるだろう。視覚からの情報に弱いのなら、聴覚を使ってみる。台本を読んだ声をスマホに録音して、何百回も繰り返し聞きながらネタを頭に叩き込む。多動という特徴も、興味が湧けばどこへでも吹っ飛んでいくので、それが落語の深みに繋がることもある。多弁は落語家にとっての最高の武器！発達障害は足かせになるだけじゃない。弱みをさらけ出して向き合うことで、今後はまた一味違った人生になる気がする！
.....柳家花緑さんより

さて、尼崎総合医療センターの石原 Dr によれば、10 人に 1 人は発達に凹凸があり、100 人に 1 人は発達障害の域にあり、1000 人に 1 人が自閉症であるということです。どの幼稚園・保育所(園)の中にも特性を抱えているお子さんが数人はいることと思います。乳幼児期の頃は、愛着障害も要因とされていますが①多動で落ち着きがない ②パニック・かんしゃくがある ③マイペース ④繰り返しの言動(常同性) ⑤聴覚・触覚・味覚の過敏性 ⑥ことばの遅れ ⑦興味の偏りなど、子どもたちに関わっておられるみなさまがたは、その適切な対応とは何か、ということに苦慮されているのではないのでしょうか。

石原 Dr は、幼児期の間は特性のひとつとして捉えることが大事だと教えてくださいました。

小さい頃よりありのままの自分を受け入れてもらえる安心感と、その特性や特徴に合った適切な支援が子どもの自己肯定感と自尊心を育むのだと強く思います。

※ 参考に平成 29 年 3 月に作成し、お渡ししています「就学前教育から小学校教育への滑らかな接続をめざして～配慮を要する子どもへの支援のあり方について～」を活用ください。

もうすぐやってくる 11 日にはぜひぜひ、ほめほめシャワーをお願いします！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター TEL: 0797-77-2132

